

# 平成22年度地域の未来図作成支援事業

## 「地域ブランドの確立に向けての取組」調査研究報告書

徳島県立総合高等学校 とくしま政策研究センター  
徳島県南部総合県民局 南部地域協働センター

### I 事業の目的

徳島県南部圏域（以下「南部圏域」という）の魅力再認識し、そのイメージを明確化・共有化しながら、地域ブランドを創出し、ブランド戦略の具体的な施策を提起することにより、南部圏域の活性化に資することを目的とする。

### II 平成22年度の取組

南部圏域内住民の地域ブランド意識や南部圏域ブランドの発信策について、圏域住民参加のワークショップ形式により意識調査を実施した。

#### 1 取組内容

##### (1) ワークショップ開催のための研修

南部圏域全体及び1市4町におけるワークショップを運営するための事前研修

- ・日 時 平成23年1月12日（水）13:00～
- ・場 所 南部総合県民局美波庁舎
- ・参加者 市町職員（阿南市、那賀町、牟岐町、美波町、海陽町）  
県職員（南部総合県民局、地方主権推進課、県立総合高等学校）
- ・講 師 笠井 義文氏（NPO 法人コモンズ 理事・事務局長、徳島大学建設工学科  
非常勤講師）

##### (2) 南部圏域地域ブランド創造ワークショップ

【別添資料「ワークショップだより Vol.1～7」】

###### ①圏域全体でのワークショップ（第1回）

- ・日 時 平成23年1月18日（火）18:30～20:30
- ・場 所 南部総合県民局美波庁舎
- ・参加者 圏域住民 20名、市町職員（阿南市、那賀町、牟岐町、美波町）4名、  
県職員（南部総合県民局、地方主権推進課、県立総合高等学校）8名

###### ②那賀町でのワークショップ

- ・日 時 平成23年2月7日（月）18:30～20:30
- ・場 所 那賀町役場相生庁舎
- ・参加者 那賀町住民 19名、那賀町職員 1名、南部総合県民局職員 1名

###### ③牟岐町でのワークショップ

- ・日 時 平成23年2月21日（月）19:00～21:30
- ・場 所 牟岐町海の総合文化センター
- ・参加者 牟岐町住民 8名、牟岐町職員 2名、南部総合県民局職員 4名

###### ④阿南市でのワークショップ

- ・日 時 平成23年2月23日（水）18:30～20:30
- ・場 所 阿南市役所
- ・参加者 阿南市住民 12名、阿南市職員 2名、南部総合県民局職員 5名

⑤美波町でのワークショップ

- ・日 時 平成23年2月25日（金）18：30～20：30
- ・場 所 美波町役場
- ・参加者 美波町住民 15名、美波町職員 3名、南部総合県民局職員 5名

⑥海陽町でのワークショップ

- ・日 時 平成23年3月1日（火）19：00～21：00
- ・場 所 宍喰町民センター
- ・参加者 海陽町住民 10名、海陽町職員 2名、南部総合県民局職員 5名

⑦圏域全体でのワークショップ（第2回）

- ・日 時 平成23年3月8日（火）18：30～21：00
- ・場 所 南部総合県民局美波庁舎
- ・参加者 圏域住民 11名、市町職員（阿南市、那賀町、牟岐町、美波町）5名、  
県職員（南部総合県民局、地方主権推進課、県立総合大学校）7名

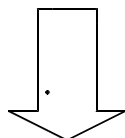
(3) ワークショップの内容

- 圏域全体でのワークショップ（第1回）及び1市4町でのワークショップ
  - ▶グループに分かれて、地域の持つ強み・弱みについて意見を出し合う。
  - ▶それぞれのグループで出された強み・弱みをもとに、県南地域のイメージのもととなるキーワードなどを探り出し、各グループごとに、県南地域のイメージを提案する。
- 圏域全体でのワークショップ（第2回）
  - ▶圏域全体でのワークショップ（第1回）及び1市4町でのワークショップで提案されたイメージを、共通するイメージごとに分類する。
  - ▶各グループで分類したイメージをもとに、県南地域のイメージのもととなるキーワードを探り出し、各グループごとに、県南地域のイメージを提案する。
  - ▶提案された県南地域のイメージにより、魅力の発信方法について提案する。

◎県南地域のイメージ

《グループ1》

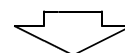
— キーワード —  
・ぬくい  
・美しい波 ・活動する波  
・スローライフ  
・綺麗な環境に居れる  
・キラキラ光 ・健康  
・LEDの光 ・星の光 ・海の光  
・すべてが天然



(人から場所から)  
ぬくいんじょ

《グループ2》

— キーワード —  
・心も体も健康  
・人も自然も「あたたかい」  
・時間が止まっている  
・自然と歴史が楽しめる  
・ひそかに歴史が生きる町  
・言挙げをしない ・気楽～  
・宝探しのできる町  
・普通の田舎 ・控えめ  
・伝統から最先端  
・未知の可能性



・(人と自然のぬくもりが)  
いっぱいあるでないで  
・歴史の源  
・昭和に会える町

## ◎県南地域の魅力の伝え方（提案）

- ・イメージソングを作る
- ・「ぬくいんじょ」のコンセプトを作る
- ・買い物袋に「ロゴ」を入れる
- ・愛称を入れる

- ・県外から来た人から見た阿波！（ガイド本）
- ・歴史のテキスト本
- ・美波阿波検定
- ・インストラクターの養成
- ・あるモノをそのまま活用する
- ・那賀海部サミット

[写真] 圏域全体でのワークショップ（第2回）風景



- ・各グループに分かれて、これまでのワークショップで提案されたイメージ（カード）を使って、共通するイメージごとに分類。



- ・分類したイメージカードをもとに、南部圏域のイメージのもととなるキーワードを探り出し、南部圏域のイメージや発信方法について意見を出し合う。



- ・イメージに関するキーワードや発信方法について書かれたカードをグループ分けして掲示。



- ・提案されたイメージや発信方法について、各グループごとに発表。

## 2 まとめ

### (1) これまでの取組

平成21年度は、南部圏域外の人から見た南部圏域のイメージを把握するため、インターネット調査を実施した。全国のインターネットユーザー（登録数約200万人）を対象に、スクリーニング調査を行い、その結果から、南部圏域を知っている人を抽出し、本調査を実施した。

また、地域ブランドに関する講演会と全国調査の結果報告を、南部総合県民局において行った。

平成22年度は、南部圏域の住民から見た南部圏域のイメージを把握するため、南部圏域住民参加のワークショップ形式による意識調査を実施し、併せて、南部圏域の魅力の伝え方（発信方法）についての提言も出し合った。

### (2) 地域イメージの方向性について

平成21年度調査では、南部圏域外の人々の南部圏域に対するイメージとして、「海・山・川などの自然が豊か」が8割以上で最も多く、次いで「人のよさや優しさ、おもてなしがよい」、「食事がおいしい」がそれぞれ約2割となっている。

他方、平成22年度調査で、南部圏域住民が、南部圏域をイメージすることば、南部圏域に対して抱いてもらいたいイメージのキーワードとして、「(人柄も地理的にも)ぬくいんじょ」、「(人と自然のぬくもりが) いっぱいあるでないで」というものがワークショップ参加者から提案されている。

自然の豊かさやおもてなしという点で共通しているが、これらは格別徳島県南部圏域だけの特徴というものではない。したがって、「ぬくい(ぬくもり)」というのが南部圏域の地域ブランドを確立していく上で、重要なキーワードになるだろうと考えられる。

### (3) 地域ブランド創造の今後について

地域ブランドは、とりもなおさずその地域に住む人々が誇りを持つことが第一であり、その意味で、南部圏域住民の方々が主役となって作り上げていくものでなければならない。

地域ブランドの確立においては、そのことを十分踏まえ、共通ロゴや、地域資源の体験の場づくりなど、イメージを具体化させていく方策や、地域ブランドの「見せ方」を検討・提案していく必要がある。

平成23年3月

徳島県立総合高等学校 とくしま政策研究センター  
研究員 大岩 恵子  
徳島県南部総合県民局 企画振興部 県南振興担当  
次長 野村 祐史  
主事 浦西 哲成